

効率性向上に関する算定例

レベル2	レベル3	レベル4		編成 (人)		工程		合計日数 (日)	延べ人員 (人日)	効率化率
擁壁工	作業土工		標準編成					46	147	$\frac{(147-105)}{147} = 42 \div 147 = 28.6\%$
			効率化編成					39	105	
			標準編成					25	63	
			効率化編成					25	63	
		床堀	標準編成	3				13	39	
			効率化編成	3				13	39	
		埋戻	標準編成	2				12	24	
			効率化編成	2				12	24	
		擁壁工	標準編成					21	84	
			効率化編成					14	42	
		型枠	標準編成	4				14	56	標準編成に対し 42人日の効率化
			効率化編成	2				7	14	
		コンクリート	標準編成	4				7	28	
			効率化編成	4				7	28	

2割達成

●対象工種

直接工事費のレベル2の工種のうち、その割合が2割以上の工種

●注意事項

・対象工種は、施工計画書提出時に、対象とするレベル2の工種及び施工性向上の証明方法を記載し、提出すること。なお、既に実施中工事で効率性向上に取り組む場合は変更施工計画書を提出するものとするが、**対象とする工種**は未着手の工種とすること。

・効率性向上の証明時に用いる編成人員や作業日数については、以下の資料を用いること。ただし、パッケージ化などにより不明な場合は、自社の過去実績などを用いて整理すること。

- 1). 標準積算基準
- 2). 新技術(NETIS登録)にある資料
- 3). 1)、2)に根拠が無い場合は、協会やメーカー資料
- 4). 1)、2)、3)に根拠が無い場合は、自社の過去実績など